

備前市事務事業評価シート

(平成21年度事業)

事業の概要		事業開始年度		昭和25年7月法律施行		根拠法令・例規等		地方税法、備前市税条例ほか	
総合計画	大項目	基本目標	06	健全で自立したまちづくり		問	担当課(室)	税務課	
	中項目	基本施策	01	簡素で効率的な行政運営			職・氏名	税務総務係長 岩崎和久	
	小項目	施策	05	財政(税務関係)			電話	0869-64-1814	
事務事業名		03		市税収納管理事業		合先	このシート作成に要した時間		7.0 時間

事業の目的		対象(誰・何に対して)		税の還付を必要とする課税対象者及び税関係の証明を必要とする市民又は法人	
目的(何のために)		市税の収納管理及び税関係の証明書発行			
事業の意図する成果(どのような状態にしたのか)		財源の確保と納税者との信頼関係のため、税を正確に収納し、過誤納の減少を目指す。市民サービスとして適正で迅速な証明交付を行う。			

事業の実績		細事業名		事業の説明		優先度	
目的を達成するため実施した事業	証明事務	各種証明書の発行(本庁及び各支所窓口) 所得証明、納税証明、固定資産評価証明など7,192件(有料)、軽自動車検査用納税証明、申告用納付額証明など2,714件(無料)。日平均40件程度				◎	
	還付事務	対象：全税、介護保険料及び後期高齢者医療保険料 546件(現年度より前の年度の変更による還付：歳出予算から支出) 2,903件(現年度内の変更又は過誤納による還付：現年度の収納分から)				◎	
	市税消込業務	毎日の収納を正確にシステム管理を行う。年間で約7万5千枚の納付書を各税目、各年度などに整理し、出納の決算額と完全一致させている。				◎	

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性の評価を行って下さい

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい

事業費等		単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績			
決算額	直接事業費		38,978	41,343	128,355			
	必要人員人件費	千円	2.35人	14,176	2.24人	17,174	2.26人	17,618
	事業費		53,154	58,517	145,973			
	国県支出金		36,061	45,468	38,343			
受入金		2,082	1,904	1,755				
受入金								
その他(広域連合返還金)				467				
一般財源		15,011	11,145	105,408				
受益者負担比率	%	3.9%	3.3%	1.2%				
結果指標名		単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績			
結果指標	結果指標量		7,548	7,871	7,192			
	対前年比	%	-	104.3%	91.4%			
	活動コスト	円	6,557,270	9,470,160	9,207,330			
	単位当たりコスト		869	1,203	1,280			

事業の成果		年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度目標値
証明書発行単位コスト	目標値(A)		400	400	800	800
	実績値(B)		871	1203	1280	到達目標値
	達成率(B/A)		217.75%	300.75%	160.00%	400
成果指標設定の考え方・式や説明						
サービス(証明発行)に対して手数料をいただいております。一件あたりの証明発行コストを指標に、適正な対価の検証やコスト意識の向上に繋がる。 事業費/証明書発行件数						

事務事業の評価		市の関与の妥当性の評価		<input checked="" type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input checked="" type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い		妥当性評価 <A~E> <b>C</b>	
効率性の評価		コスト		<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託等)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input checked="" type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている		効率性評価 <A~E> <b>C</b>	
有効性の評価		目的達成度 市民参画度		<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の到達目標値は達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい <input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している		有効性評価 <A~E> <b>C</b>	

留意事項の目的やその数値目標である成果指標を行って下さい

進行年度(H22年度)の改革改善内容		状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明		結果指標量に占める人件費の割合が98.9%であり、サービスの向上(待ち時間の少ない対応など)には人件費の抑制が困難である。しかし、人件費の効率的な分配によりコストダウンすることはできる。							

総合評価		評価区分 <A~E> <b>C</b>		妥当性 有効性 効率性	
地方税法、市税条例に定められている業務で、市民に正しく税を納めてもらうことを目標とする。納めすぎた税は速やかに還付し、また、市民が金銭貸借や各種の福祉事業による納付金の減免申請に必要な所得証明書、資産証明書、納税証明書等の交付は正確かつ迅速でなければならない。税の正確な収納は市の財源確保に欠かせない。					

平成23年度の方向性及び取組目標		方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
取組目標		窓口業務とその他事務事業を効率よく配分し人件費の抑制を図る。							